

(株) マーキュリアホールディングス

2022年12月期第1四半期決算ハイライト

証券コード：7347 東証プライム

2022年5月12日

(ご注意) 本資料に記載された事項は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。本資料に含まれる意見や予測などについては、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご留意下さい。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が運用するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されており、また、本資料及び本資料の内容を、当社の許可なく、第三者に開示又は漏洩することはできません。なお、本資料内の数値は全て連結ベースにて表示しております。

■ バイアウト事業 (事業投資事業)

- 1号ファンド（ファンド総額213億円/自己投資額22億円）は**投資進捗面/運用面において好調**
- **東京電解社のJX金属社へのExit**を公表（4月4日）、累計投資実行9件に対する累計Exitは4件
- 2号ファンドは、新たな投資家も含めて**264億円**にて**1stクローズ**、今後はファンド総額**400～500億円**を目指す

■ Spring REIT事業

- 主要ポートフォリオ**中国北京オフィスビル**の稼働率は**98%**と好調
- 新たに中国広東省の**大規模高級商業施設**を約**330億円**にて**取得予定**を公表（5月10日）

■ 資産投資事業

- 台湾太陽光開発：**エネクス・インフラ投資法人**等で協業関係にあるマイオーラ社と共に参画すべく、**10億円の自己投資**を決定
- **インバウンド不動産**：日本国内に対する実需や関心に着目した**不動産投資関連ビジネス**を推進

■ 連結業績

- **予想営業収益40億円/経常利益19億円**に対し、実績営業収益6.6億円/経常利益2.0億円
- 22/12期は**バイアウト2号等のファンドレイズ**による管理報酬の増加、**バイアウト1号における投資Exit**による自己投資収益の増加を見込む

-
1. 事業進捗のアップデート
 2. 決算ハイライト
 3. 損益構造と損益推移
 4. 持株会社体制

1. 事業進捗のアップデート

1.1 バイアウト事業（概要及び事業進捗）

- 2016年よりスタートしたバイアウト事業において、1号ファンドは投資進捗面/運用面において好調、4月4日には新たに東京電解社のJX金属社へのExitを公表
- 現在は2号ファンドを組成中であり、ファンド総額400～500億円を目指す

バイアウト事業 の概要

- 2016年よりバイアウト1号ファンドの運用を開始。それ以前も成長投資及びターゲットファンドを通じ、国内外の企業に対する豊富な投資実績を有する
- 「製造業×中堅企業」を対象としたアプローチに強みあり。相対案件を中心とした低マルチプルでのエントリー実績が豊富

バイアウト1号

- ファンド総額は213億円
- 投資進捗は好調であり、投資実績9件、うち4件Exit済（4月4日公表の東京電解社のExitを含む）
- 運用も好調であり、現時点で目標リターン（ネットIRR15%）を上回る運用

SHINX
Ideas for progress

IZUMI

TSUNODA
SINCE 1925

nsk
MIZUTANI SANGYO K.K.

e-tec
physical distribution

Pentel

東京電解
ULTRA HIGH PURITY RARE METAL

MIYATAKE

株式会社 KOJIMA
小島製作所

バイアウト2号

- 1号ファンドの既存LP投資家を中心に264億円にて1stクローズ
- Finalクローズまでにファンド総額400～500億円を目指す

1.1 バイアウト事業（収益貢献）

- 1号ファンドは、これまで管理報酬及び自己投資収益において収益貢献、今後はExitフェーズを迎えるため、自己投資収益に加えて、成功報酬による収益貢献を見込む
- 2号ファンドは、ファンド総額及び自己投資額ともに1号ファンドを上回るため、1号ファンド以上の収益貢献を見込むと同時に、事業基盤の更なる強化を図る

		1号ファンド（2016年～）	2号ファンド（2022年～）
ファンド総額		213億円	400～500億円（目標）
自己投資額		22億円	30億円（予定）
営業 収益 区分	管理報酬	<ul style="list-style-type: none"> - ベース年間管理報酬：約4億円 - 投資期間後は投資金額を基準に計算 	<ul style="list-style-type: none"> - ベース年間管理報酬：約8～10億円（ファンド総額400～500億円）を目指す
	自己投資収益	<ul style="list-style-type: none"> - 自己投資収益累計：8.2億円/3件（2.7億円/件） - 今後は投資先Exit毎に計上（6件） 	<ul style="list-style-type: none"> - 自己投資額は1号ファンド22億円に対して30億円を予定
	成功報酬	<ul style="list-style-type: none"> - 現時点では目標リターン（ネット投資倍率2倍程度）を上回る運用 - 今後は出資履行金額を超えた分配（ハードルレートあり）に対して計上 	<ul style="list-style-type: none"> - 目標リターンは1号ファンドと同水準（ネットIRR15%超/5年）

1.2 Spring REIT事業（概要及び事業進捗）

- 2013年に香港証券取引所に上場のSpring REIT事業において、主要ポートフォリオ中国北京オフィスビルの稼働率は98%と好調

北京China Central Place (CCP)



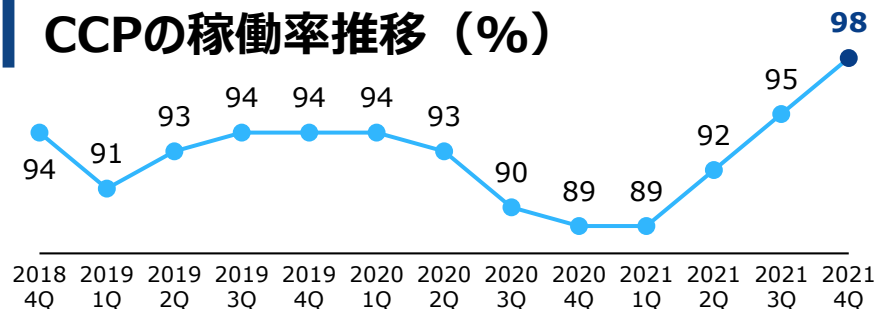
Spring REIT概要

項目	詳細
保有資産	オフィスビル（北京）：145,372平米 商業店舗（英国）：84店舗
資産総額	約1,700億円
LTV	約30%
時価総額	約600億円

英国の店舗不動産



CCPの稼働率推移（%）

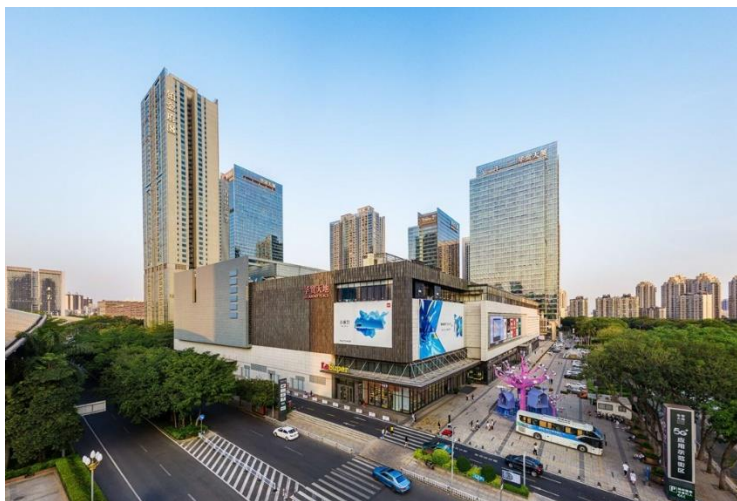


出所：Spring Asset Management調べ

1.2 Spring REIT事業（概要及び事業進捗）

- 5月10日には新たに中国広東省の大規模高級商業施設を約330億円にて取得予定を公表
- 資産取得により約1%の成功報酬（取得報酬）に加えて、管理報酬の増加及び約13%の配当可能利益の増加を見込む

新規取得資産（Huamao Place）



新規資産取得に伴う当社収益への影響

一時収入

成功報酬
(取得報酬) の獲得

継続収入

管理報酬の増加

受取配当の増加
(自己投資収益)

1.2 Spring REIT事業（収益貢献）

- Spring REITは、これまで管理報酬及び自己投資収益（配当収益）において収益貢献、ファンド満期はオープンエンドであることから今後も長期継続的な収益貢献が見込まれる
- 今後は資産取得（AUM増加）による管理報酬の更なる底上げ、成功報酬（取得報酬）の獲得を目指す

		現在	今後の資産取得
AUM		約1,700億円	資産取得毎に増加
自己投資額		約76億円	管理報酬の一部をSpring REIT持分（自己投資額）により受領
営業 収益 区分	管理報酬	- 21/12期年間管理報酬：約10億円	- 資産取得による増加（管理報酬の基準はAUM及びNOI） - ファンド期間はオープンエンドのため長期継続的に収益貢献
	自己投資収益（配当収益）	- 21/12期自己投資収益：約5億円	- 優良資産の取得及び借入を活用した資金調達により、配当利回りを高める
	成功報酬（取得報酬）	- 現在までの成功報酬（取得報酬）は2017年の英国不動産取得時の1.1億円	- 資産取得に対して約1%の成功報酬（取得報酬）を見込む

1.3 その他事業の進捗とニュースリリース

- バイアウト以外の事業投資分野では、Biztechファンドにおける投資を着実に実行
- 資産投資分野では、台湾太陽光開発、インバウンド不動産、人工衛星等、新たな収益源となるファンド組成へ向けた事業企画を推進

事業投資	BizTech ファンド	株式会社ハッチワークに対する投資実行のお知らせ（1/27） GOKEN 株式会社に対する投資実行のお知らせ（4/27）	投資期間は間もなく満了 投資進捗は順調であり、累計投資実行は16件
資産投資	台湾太陽 光開発 事業	台湾メガソーラー開発事業に対する投資のお知らせ（2/16）	エネクス・インフラ投資法人等で協業関係にあるマイオーラ社と共に台湾の太陽光発電施設の開発事業に参画することにより、新規ファンド組成を目指す 当社からは10億円の自己投資を決定
	インフラ 事業	インフラ・ウェアハウジングファンドの投資進捗（1/25）	エネクス・インフラ投資法人への売却を基本戦略に運用中 累計投資額は60億円
	インバウンド不動産 事業	インバウンド不動産投資戦略への取り組みについて（1/26）	海外からの日本国内に対する実需や関心に着目した不動産投資ファンドの組成を目指す
	人工衛星 事業	人工衛星のライドシェアビジネスを目指すLoft Orbital社がシリーズBラウンド調達を発表（1/12）	人工衛星のライドシェア機能に着目し、将来のファンド化を含む、ビジネス展開を模索

1.4 第1四半期に行ったIR活動

- 5年～10年の事業サイクル（事業企画/ファンド組成から業績への反映までの期間ギャップ）を補うべく、事業方針や事業進捗を積極配信
- 日本では馴染みの薄いオルタナティブ投資の啓蒙を進めるとともに、オルタナティブ投資への知見が高い海外投資家へ情報発信をすべく英文開示の充実を図る

IR活動	現状と今後の方向性
会社/決算説明会	<ul style="list-style-type: none">- 日経CNBCへの出演や書き起こしサービスを活用し、4回の会社/決算説明会を行う<ul style="list-style-type: none">• 2/25 決算説明会 (https://finance.logmi.jp/376847)• 3/2 個人投資家向け会社説明会 (https://www.irmovie.jp/nir2/?conts=mercuria-hd_202203_tH1y)• 3/10 日経CNBC～攻めのIR～Market Breakthrough (https://www.youtube.com/watch?v=UkcMLv2-oKg&list=PLM6ldbteA6OMiiWerKL6GXnsphPDdpJ59&index=3)• 3/26 個人投資家向け会社説明会 (https://finance.logmi.jp/376923)
ニュースリリース 発信	<ul style="list-style-type: none">- 事業部門との双方間のコミュニケーションによる情報に基づくニュースリリースを行う- 四半期で28件（月平均10件弱）のニュースリリース（適時開示を含む）を発信
英文開示の充実	<ul style="list-style-type: none">- プライム市場への適合へ向けて、決算情報のTDnetへの英文開示（Delayed）を開始- 各種適時開示及びプレスリリースも英文開示を開始

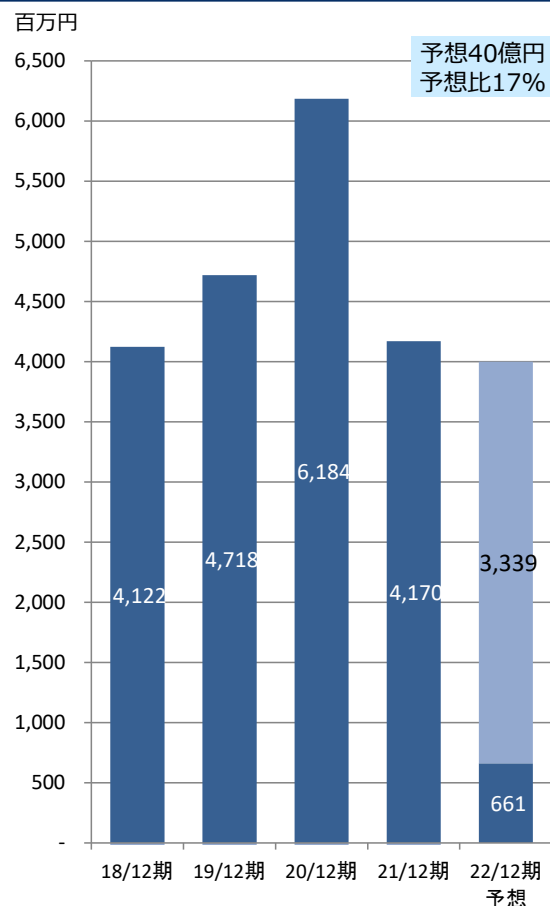
2. 決算ハイライト

2.1 連結経営成績（1/4）～概要～

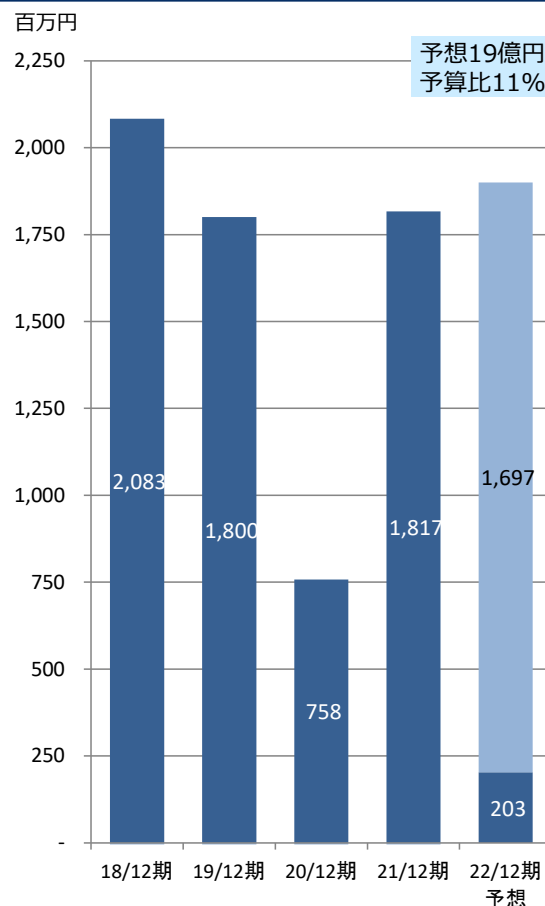
※当社は、2021年7月1日設立のため、2020年12月期以前の連結計数はありませんが、参考として、マーキュリアインベストメントを親会社とする旧組織の連結計数と比較しております。（以下同じ）

- 予想営業収益40億円/経常利益19億円に対し、実績営業収益6.6億円/経常利益2.0億円
- 当期純利益は13億、5年平均当期純利益は11.6億円を見込む

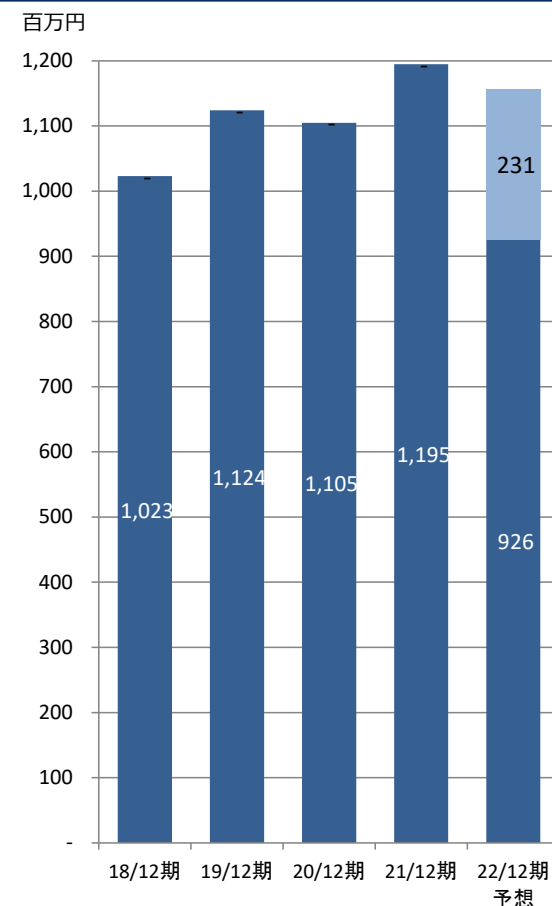
営業収益



経常利益



5年平均当期純利益



※ 20/12期営業収益はSpring REITのストラクチャリングに係る一時的営業収益28億円を含む

2.1 連結経営成績（2/4）～対前年比/対予算比～

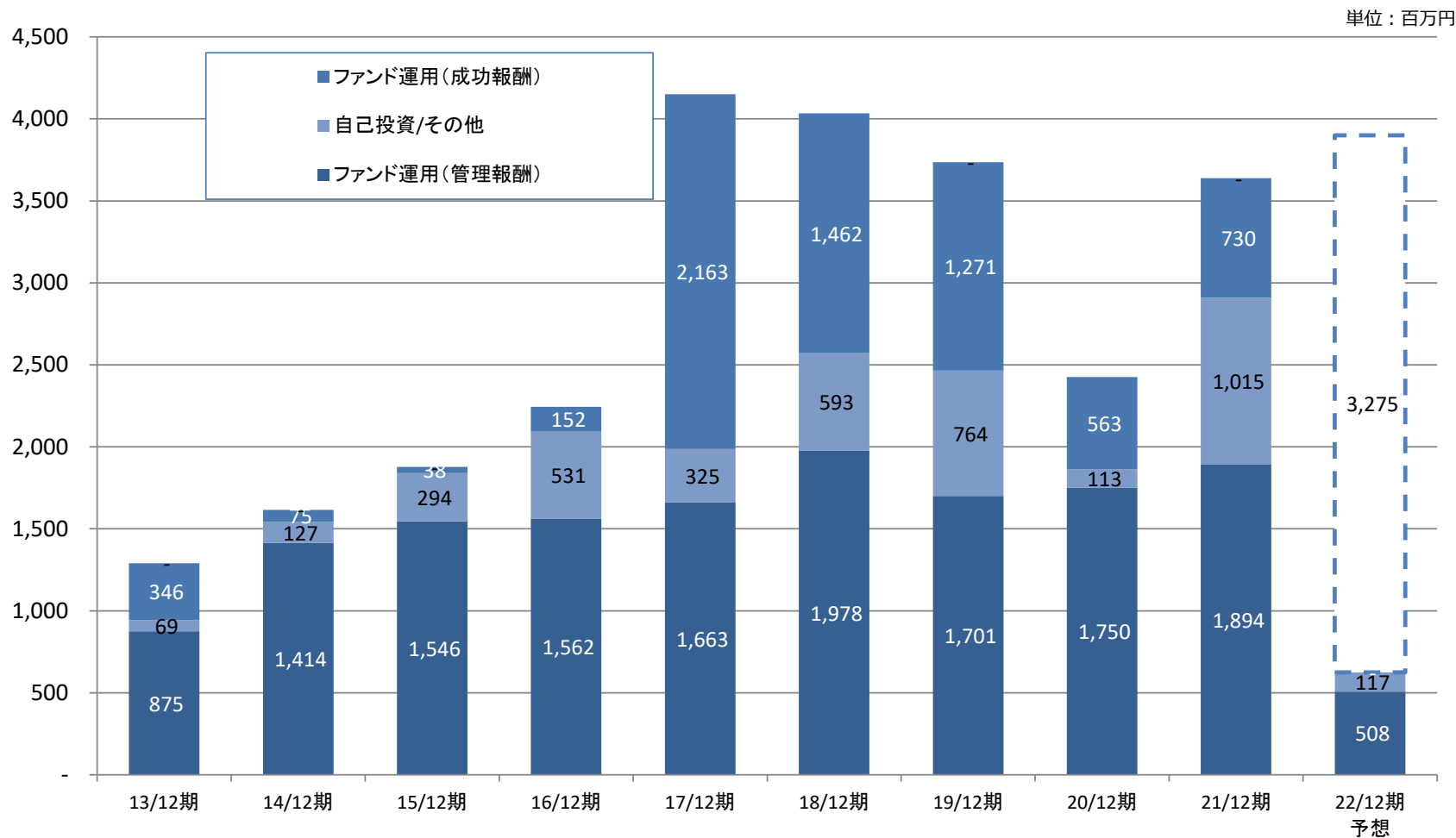
- 営業収益は、自己投資にてインフラ投資法人への太陽光発電施設組入による営業収益の反動により、対前期比は減収
- 22/12期はバイアウト2号ファンド等のファンドレイズによる管理報酬の増加、バイアウト1号ファンドにおける投資Exitによる自己投資収益の増加を見込む

単位：百万円

		①21/12期 1Q実績	②22/12期 1Q実績	対前年比 ②÷①	③22/12期 業績予想	予算進捗率 ②÷③
営業収益		793	661	83%	4,000	17%
営業原価		△75	△36	48%	△100	36%
営業 総 利 益	ファンド運用 (管理報酬)	424	508	120%	3,900	16%
	ファンド運用 (成功報酬)	-	-	-		
	自己投資/その他	294	117	40%		
	合計	719	625	87%		
販売費及び一般管理費		△410	△501	122%	△2,000	25%
営業利益		309	124	40%	1,900	7%
経常利益		370	203	55%	1,900	11%
親会社株主に帰属する 当期純利益		255	145	57%	1,300	11%

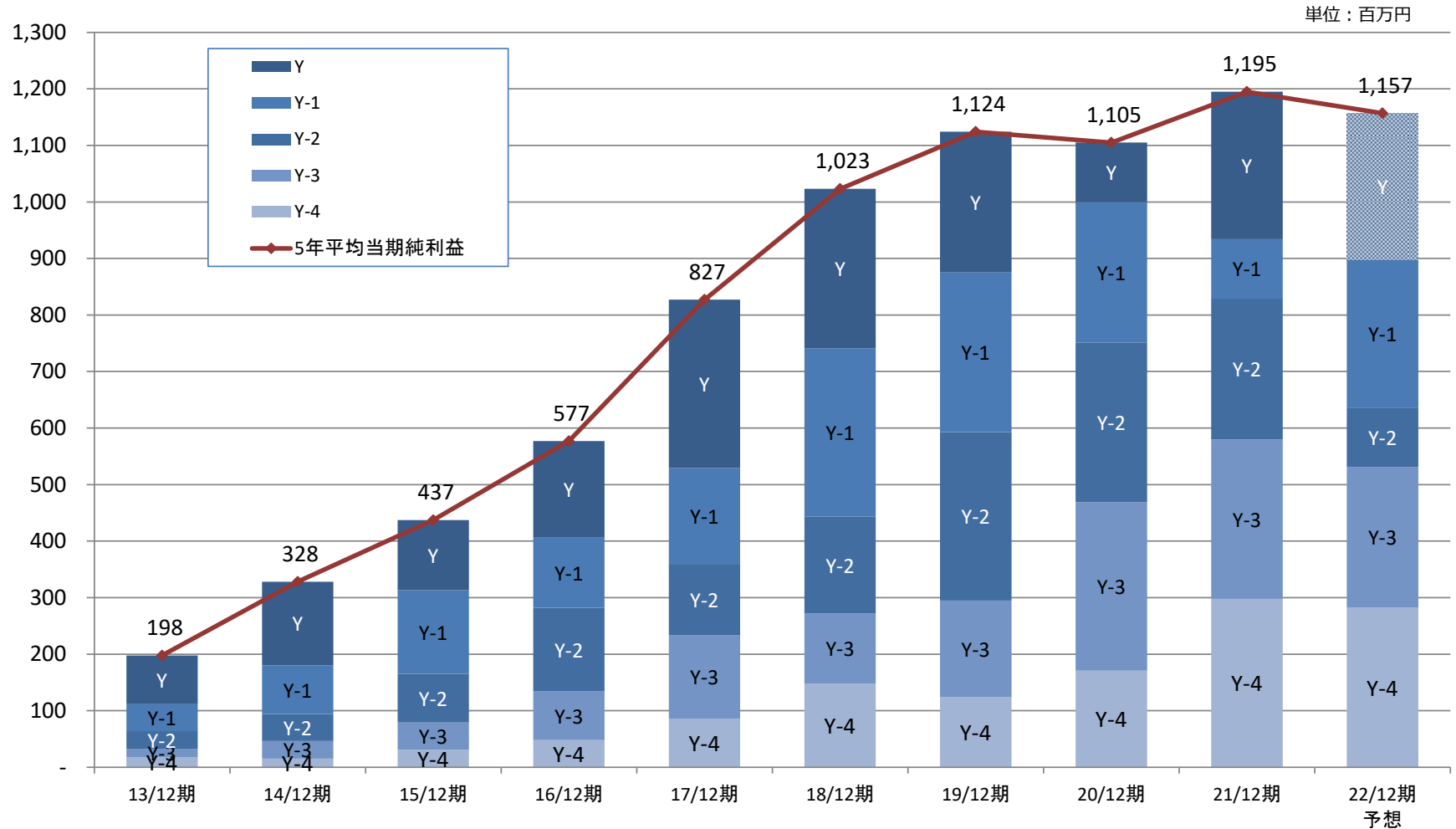
2.1 連結経営成績（3/4）～営業総利益推移～

- 成功報酬は17年12月期～21年12月期において62億円を計上（うちグロース1号ファンド37億円、金融危機時に組成したバリュートリートメント投資ファンド17億円等）
- 自己投資はSpring REITからの安定配当に加え、16年12月期に組成したバイアウト1号ファンド等の好調なファンド運用を反映し、管理報酬、成功報酬と並ぶ収益の柱に成長



2.1 連結経営成績（4/4）～5年平均当期純利益推移～

- 当社の事業サイクルのタイムラインが5年～10年を要すること、成功報酬等の一時的損益が単年度損益へ与える影響が大きいことから、5年平均当期純利益を主要経営指標として使用
- 22年12月期の5年平均当期純利益は11.6億円を見込む

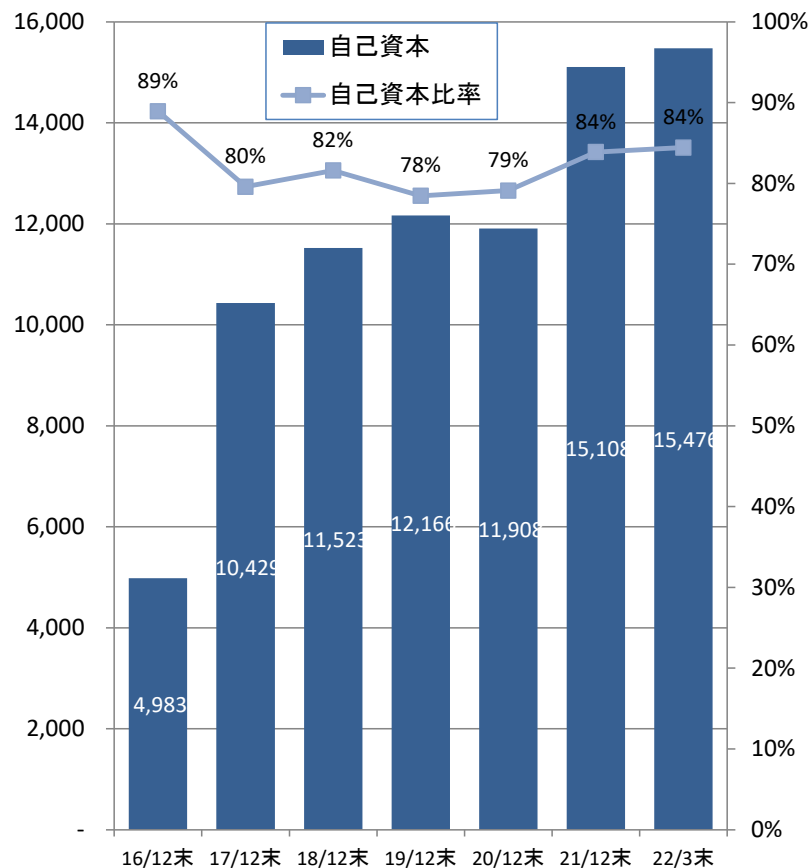


2.2 連結財政状態 (1/2)

- 自己資本は毎期の経常的な利益獲得及び増資により22年3月末は155億円まで増加
- 現預金34億円はバイアウト2号ファンド等の新規組成ファンドへのセიმボート自己投資資金へ充当予定

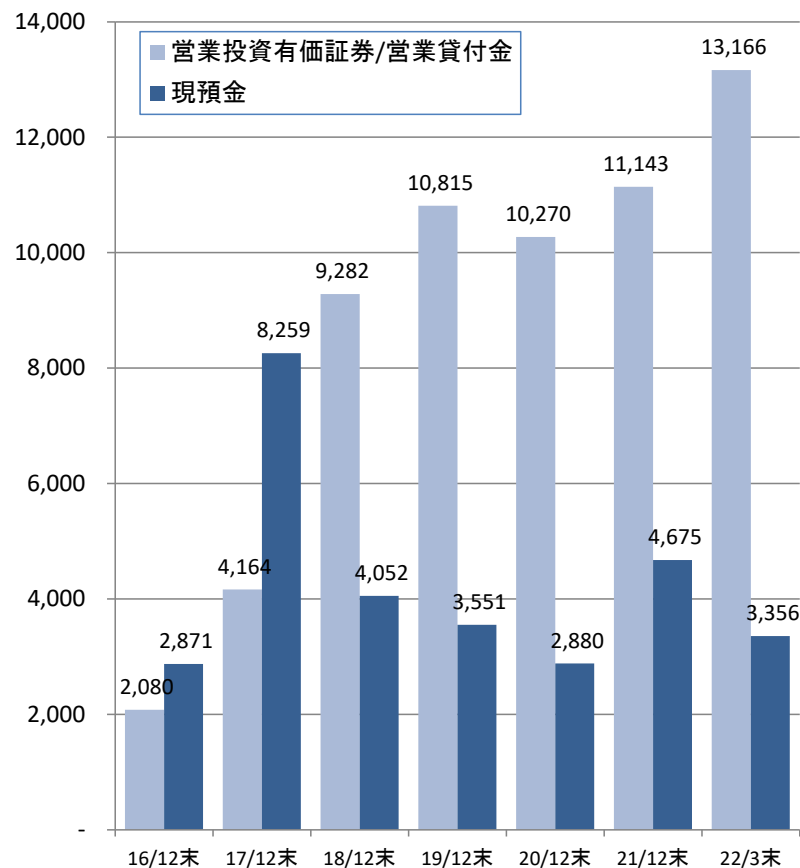
自己資本

単位：百万円



現預金/自己投資

単位：百万円



2.2 連結財政状態 (2/2)

- 資産は運用ファンドへのセიმボート自己投資132億円、現預金34億円等により構成
- 負債はSpring REITへのセიმボート自己投資に係る借入金8.4億円が計上

単位：百万円

借方		21/12末	22/3末	貸方		21/12末	22/3末
流動資産	現預金	4,675 (26%)	3,356 (18%)	流動負債	借入金	130(1%)	130(1%)
	営業未収入金	541 (3%)	393 (2%)		その他流動負債	806(4%)	682(4%)
	営業投資有価証券/ 営業貸付金	11,143 (62%)	13,166 (72%)	固定負債	長期借入金	744 (4%)	711 (4%)
	その他流動資産	441 (2%)	408 (2%)		その他固定負債	509 (3%)	531 (3%)
固定資産	投資有価証券	281 (2%)	281 (2%)	純資産	自己資本	15,108 (84%)	15,476 (84%)
	その他固定資産	929 (5%)	725 (4%)		(内訳)		
					株主資本	(内訳)	(内訳)
					その他有価証券 評価差額金 為替換算調整勘定	15,575 △418 △48	15,307 102 67
				非支配株主 持分等	713 (4%)	799 (4%)	

2.3 配当の状況

- 配当基本方針に基づき、22年12月期は1株当たり配当金20円（5年平均当期純利益に対する配当性向37.1%）を見込む

配当の方針

- 株主還元は配当を基本とし、配当の安定性に配慮します
- 当面は配当性向は30%程度を目安としますが、当社は成功報酬等による損益への影響が比較的大きいことから、単年度損益の影響を抑制し、配当の安定性を高めるために、当面は対象利益指標を「5年平均当期純利益」とします
- 「5年平均当期純利益」の成長を通して、配当水準を引き上げることを目指します

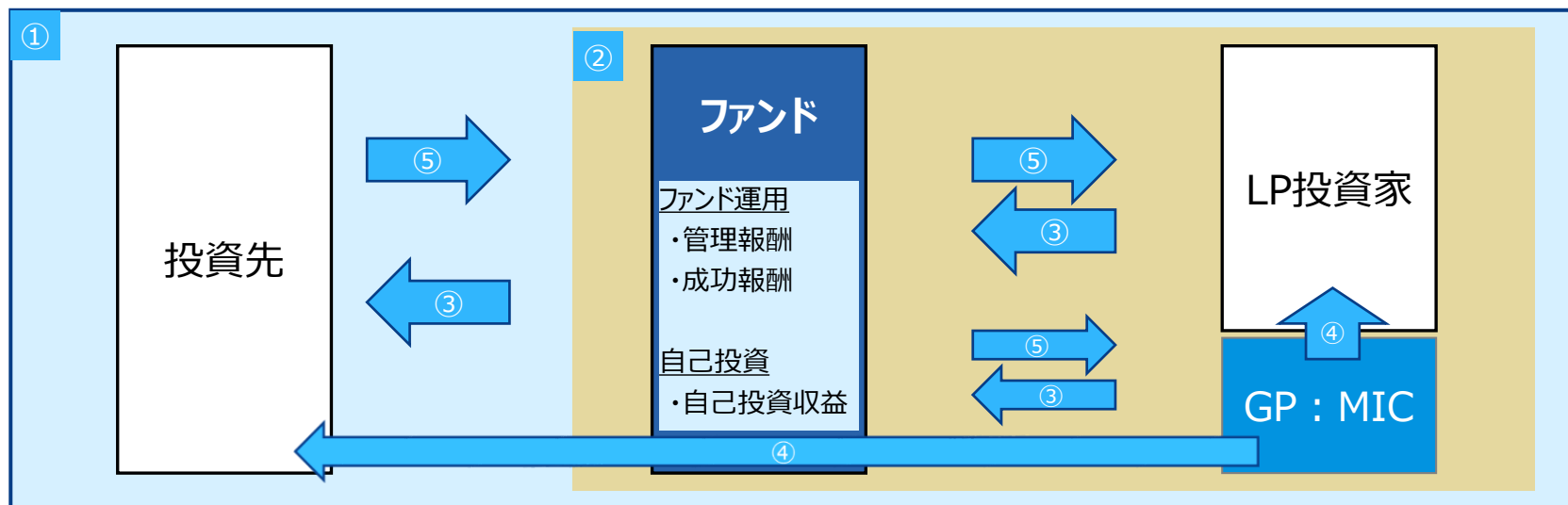
単位：百万円	18/12期実績	19/12期実績	20/12期実績	21/12期実績	22/12期予想
①親会社株主に 帰属する当期純利益	1,411	1,245	525	1,304	1,300
②5年平均当期純利益	1,023	1,124	1,105	1,195	1,157
③1株当たり配当金	18円	19円	20円	20円	20円
④発行済株式総数	17,466,100株	17,606,500株	17,644,900株	21,443,100株	21,443,100株※
⑤配当金総額(③×④)	314	335	353	429	429
⑥配当性向(⑤÷②)	30.7%	29.8%	31.9%	35.9%	37.1%

※ 22/12期予想の④発行済株式総数は22年3月末実績

3. 損益構造と損益推移

3.1 事業概要

- 当社グループは、投資家より預かった資金を運用するファンド運用事業、自らが運用するファンドへ自己資金によるセイムポート投資を行う自己投資事業から構成されます。
- ファンド運用事業は、ファンド運用の対価として管理報酬、ファンド運用成果の対価として成功報酬を得るビジネスであり、自己投資事業は、ファンド運用の損益そのものを得るビジネスです。



投資先		投資家
マクロ環境を踏まえた 資金ニーズの分析	①事業企画	マクロ環境を踏まえた 投資ニーズの分析
パイプライン	②ファンド組成	ファンド契約締結
投資	③投資実行	キャピタルコール
役員派遣、ビジネスマッチング等	④バリューアップ/モニタリング	運用報告
売却	⑤Exit	分配

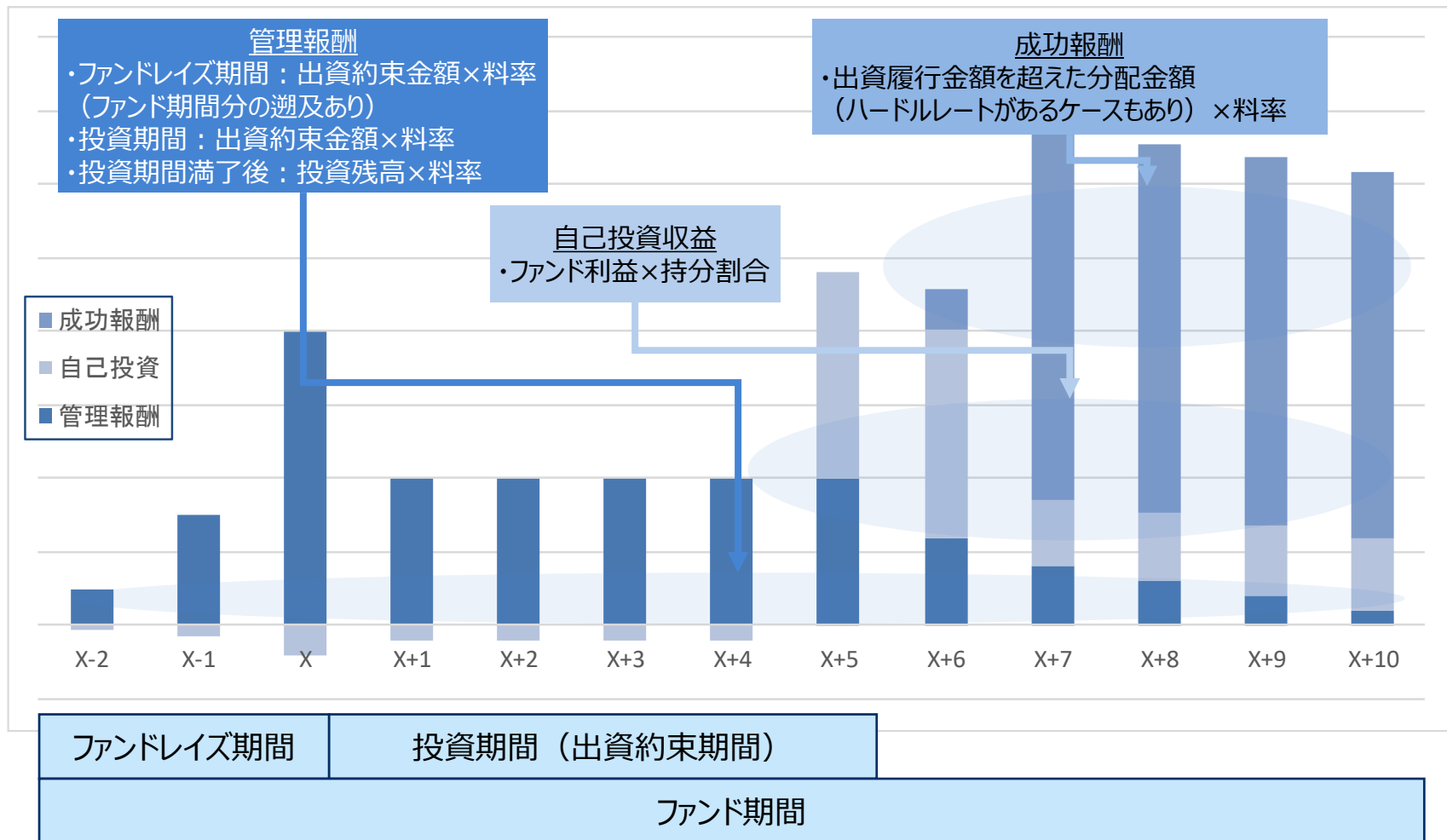
3.2 損益構造（1/3）～営業収益区分～

- 当社グループの営業収益は、ファンド期間のステージに応じて、管理報酬、自己投資収益、成功報酬を得るビジネスモデルであり、それぞれの内容及び発生タイミングは以下の通りです。

営業収益区分	内容	タイミング
管理報酬	<ul style="list-style-type: none">- 投資期間中は出資約束金額（ファンド総額）に対して一定割合を乗じた金額を、投資期間満了後は投資金額に対して一定割合を乗じた金額を管理報酬として受領	<ul style="list-style-type: none">- ファンド期間にわたり経常的に発生
自己投資収益	<ul style="list-style-type: none">- ファンドにおける損益に保有比率を乗じた金額を自己投資損益として計上	<ul style="list-style-type: none">- ファンド期間において個別投資先のExit等によりファンド利益が計上される都度、発生
成功報酬	<ul style="list-style-type: none">- 出資履行金額を超えた分配金額（ハードルレートがあるケースもあり）に対して一定割合を乗じた金額を成功報酬として受領	<ul style="list-style-type: none">- ファンド期間の後半においてファンド全体としての投資成果に応じて都度、発生

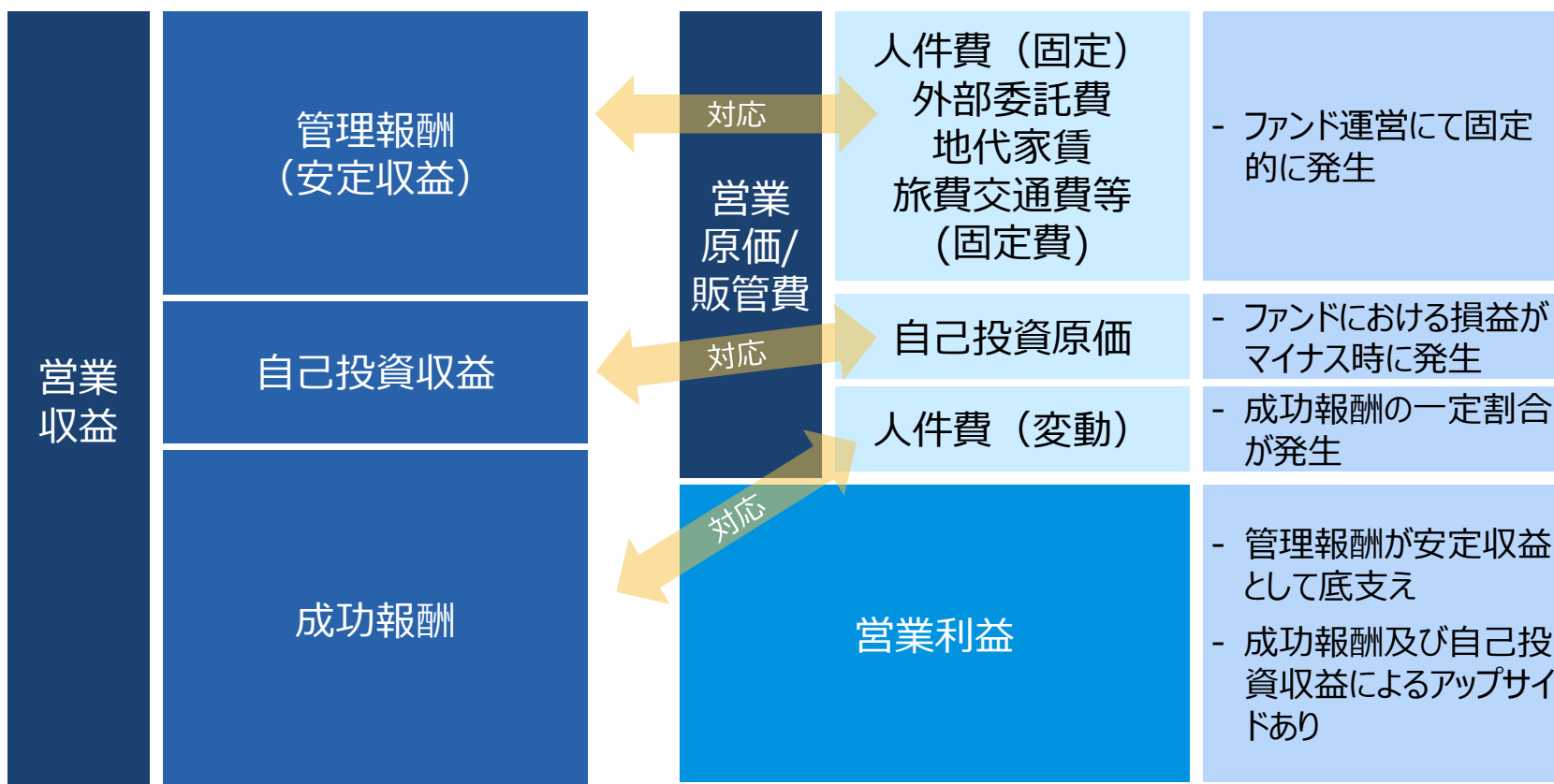
3.2 損益構造（2/3）～営業収益発生モデル～

- 一般的なファンドにおけるファンド期間のステージ毎の管理報酬、自己投資収益、成功報酬のイメージは以下の通りです。
- 複数ファンドを並行して運用を行うマルチストラテジー戦略により収益平準化を図ります。



3.2 損益構造（3/3）～営業収益と営業原価/販管費の対応～

- 損益構造は、安定収益たる管理報酬にて固定的に発生する費用を賄い、成功報酬及び自己投資収益によるアップサイドを目指す構造です。



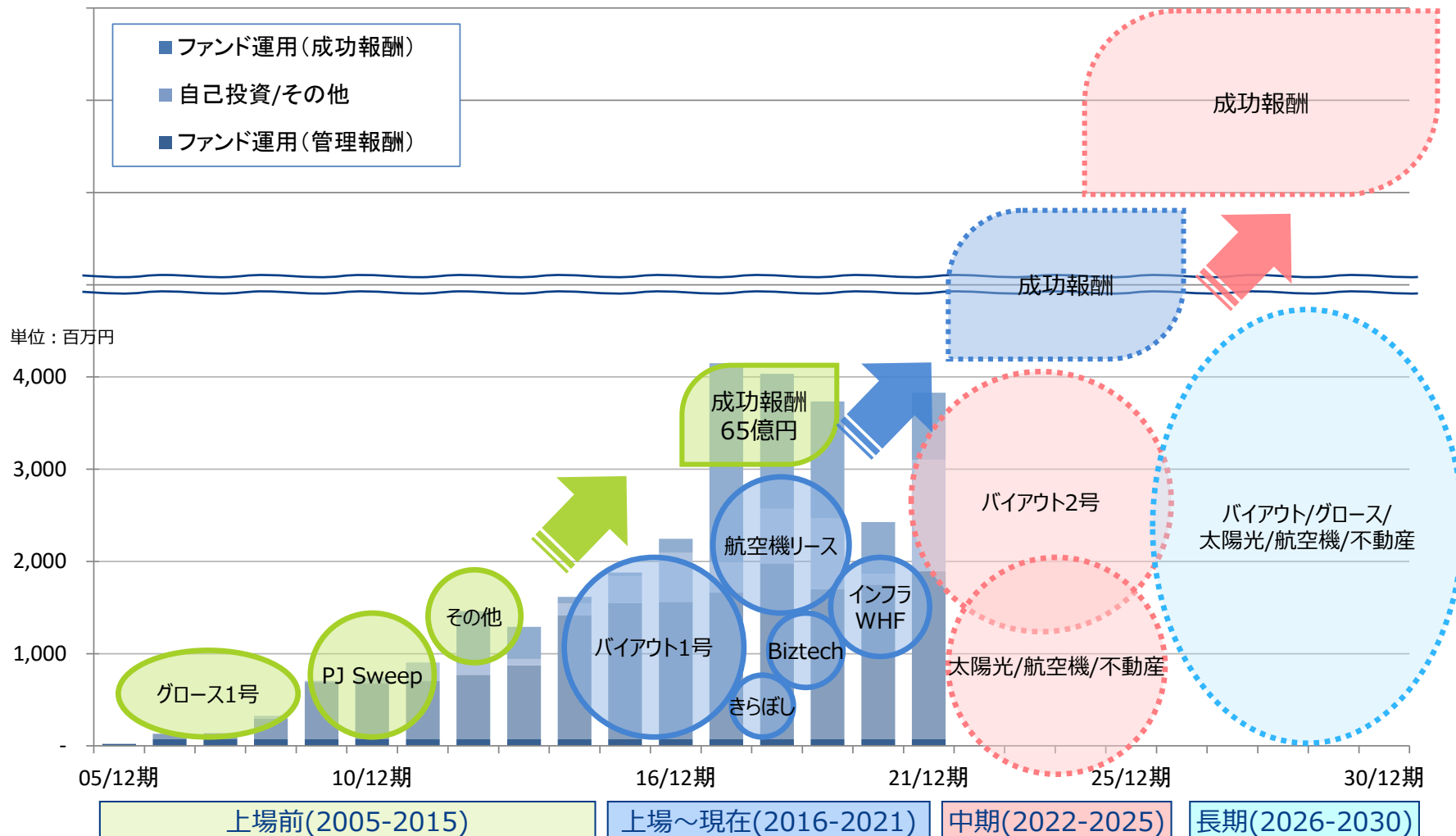
(参考) 損益構造と企業価値

- 当社が想定する当社株式価値は、①定常価値（管理報酬）、②純資産価値（自己投資）、③アップサイド価値（成功報酬）により構成される
- 時価総額は125億円（2022年5月10日終値ベース）であり、今後は当社が想定する潜在的価値の実現を目指す

想定株式価値		考え方	時価総額 2022年5月10日終値
想定株式価値の構成要素	アップサイド価値 (成功報酬)	<ul style="list-style-type: none"> + 上場以降組成したファンドが今後成功報酬ステージに達することに加え、サイズアップした後継ファンドの組成も順調 + バイアウトの目標リターンはネットIRR 15%超（投資期間5年で投資倍率2倍）（過去ファンドの成功報酬は65億円） 	<p>当社が 想定する 潜在的価値</p>
	事業価値 (管理報酬)	<ul style="list-style-type: none"> + ベース年間管理報酬を底上げ（現在19億円弱→25億円水準） + 長期契約に基づくため不確実性は低い - 営業費用 	
	純資産価値 (自己投資)	<ul style="list-style-type: none"> + 現預金34億円 + 自己投資132億円（含み損益あり） + その他資産18億円 - 借入金8億円 - 営業債務等の負債12億円 - 非支配株主持分等8億円 	
		成功報酬の期待値	125億円 (583円/株)
		管理報酬 基盤を有する 事業価値	
		自己資本155億円 + 含み益の 資産価値	

3.3 損益構成要素～成功報酬（ファンド組成と収益貢献）～

- ファンド組成から成功報酬発生まで一定の時間を要するため、上場後に組成したファンドの成功報酬は今後数年で発生することを見込む
- マルチストラテジーのファンド運用会社として、今後も事業投資と資産投資の分野で様々なファンドを組成、運用し、成果をあげることで、中長期的な企業価値向上を図る方針



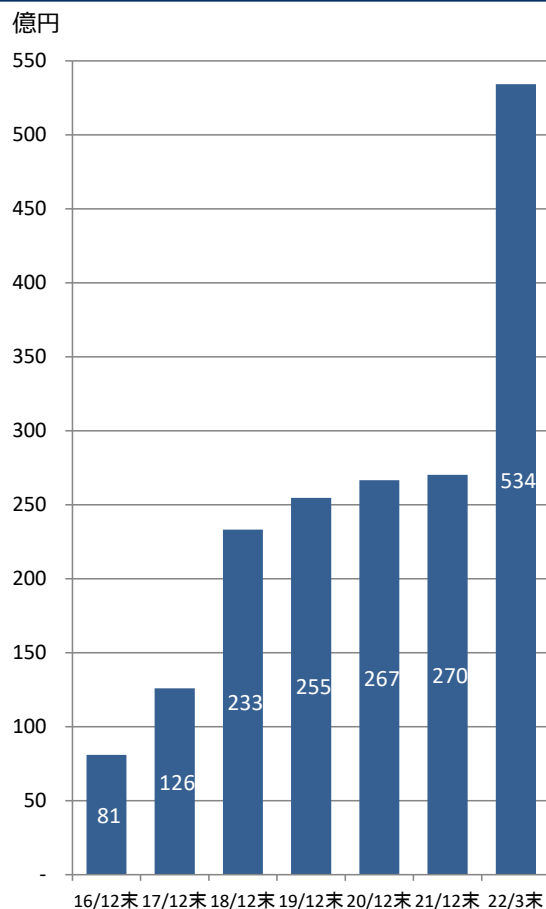
3.3 損益構成要素～成功報酬（組成ファンド別成功報酬）～

	ファンド区分	投資戦略	主要パートナー	ファンド総額	ファンド期間	成功報酬累計
過去組成	グロース1号ファンド	成長	DBJ他	70億円	2005-	37.3億円
	Project Sweep	バリュー	海外投資家	98億円	2010-2017	16.0億円
	その他ファンド	成長 / バリュー	国内/海外投資家	-	2012-	12.0億円
事業投資	バイアウト1号ファンド	バイアウト	DBJ、SMTB他	213億円	2016-	(投資期間)
	きらぼしファンド	バイアウト	きらぼし、ゆうちょ他	26億円	2018-	(投資期間)
	Biztechファンド	成長	伊藤忠、SMTB他	31億円	2019-	(投資期間)
	バイアウト2号ファンド	バイアウト	DBJ他	目標400～500億円	1stクローズ(264億円)	(組成中)
Spring REIT	Spring REIT	不動産	香港証券取引所上場	約560億円	2013-	1.1億円 (オープンエンド)
資産投資	グロース2号ファンド	成長	DBJ他	31億円	2013-	(投資期間)
	航空機リースファンド	CF	年金、信金、地銀他	約120億円	2018-	(投資期間)
	インフラウェアハウジングファンド	CF	伊藤忠エネクス、SMTB他	75億円	2020-	(投資期間)
	台湾太陽光ファンド	CF	企画中	企画中	企画中	-

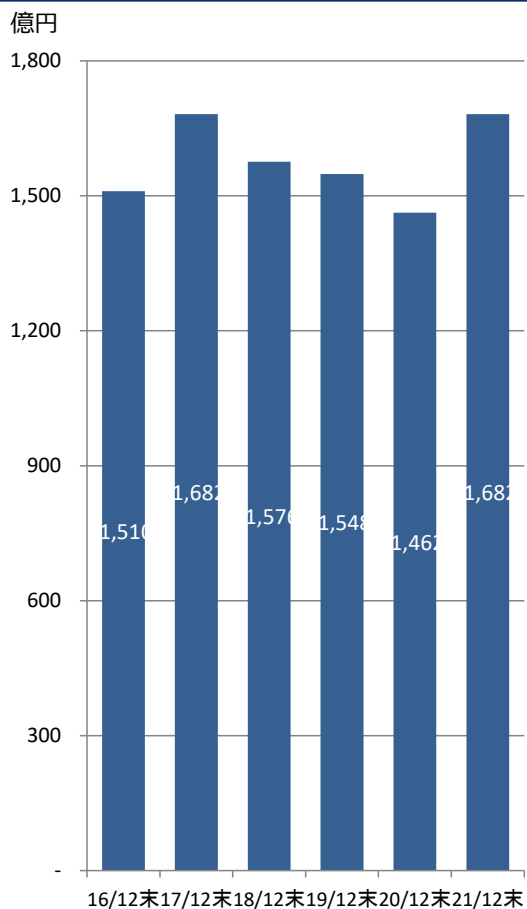
3.3 損益構成要素～管理報酬（基準資産残高の推移）～

- 事業投資分野ではバイアウト2号の組成により管理報酬基準資産は264億円増加
- 今後はバイアウト2号の追加クローズ、台湾太陽光ファンド（資産投資）の組成、Spring REITにおける資産組入により更なる管理報酬基準資産の積み上げを図る

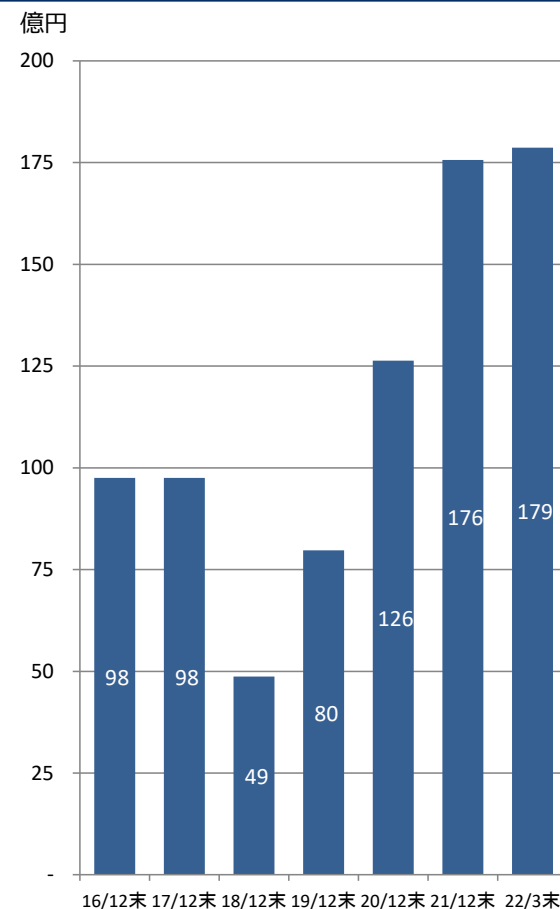
事業投資



Spring REIT



資産投資



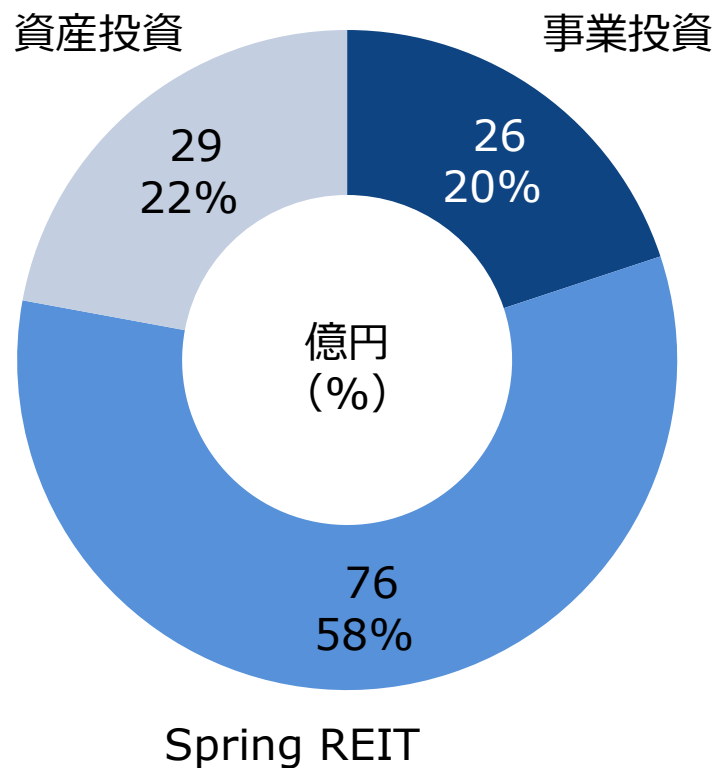
3.3 損益構成要素～自己投資（資産・負債の構成）～

- 22年3月末における自己投資残高は132億円に対して借入金は8億円、今後は借入による資金調達や財務レバレッジの活用も検討

資産・負債構成

億円	21/12末	22/3末
事業投資	25	26
Spring REIT	65	76
資産投資	22	29
営業投資有価証券/営業貸付金	111	132
現預金	47	34
営業未収入金	5	4
その他流動資産	4	4
投資有価証券	3	3
その他固定資産	9	7
①資産合計	180	183
事業投資	-	-
Spring REIT	9	8
資産投資	-	-
借入金	9	8
その他流動負債	8	7
その他固定負債	5	5
②負債合計	22	21
③純資産(①-②)	158	163

自己投資構成（22/3末） （営業投資有価証券/営業貸付金）



3.4 損益推移

■ 過去6年間の損益推移

単位：百万円

損益推移	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期
営業収益	2,521	4,224	4,122	4,718	6,184	4,170
営業総利益	2,245	4,150	4,034	3,735	2,426	3,638
管理報酬	1,562	1,663	1,978	1,701	1,750	1,894
成功報酬	152	2,163	1,462	1,271	563	730
自己投資 /その他	531	325	593	764	113	1,015
販売費及び 一般管理費	△965	△1,920	△1,917	△1,879	△1,654	△1,875
営業利益	1,280	2,230	2,117	1,856	772	1,763
経常利益	1,248	2,208	2,083	1,800	758	1,817

3.4 営業総利益（管理報酬）推移

■ 過去6年間の管理報酬に係る営業総利益の推移

単位：百万円

営業総利益 (管理報酬)	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期
事業投資	296	498	821	675	710	729
Spring REIT	974	942	1,065	946	929	1,003
資産投資	293	223	92	79	111	162
営業総利益 (管理報酬)	1,562	1,663	1,978	1,701	1,750	1,894

- 事業投資は主として2016年の上場後に組成したバイアウト1号ファンド等のファンド総額の拡大に伴い増加してきましたが、今後はバイアウト2号ファンドの組成により更なる増加を見込みます（18/12期はバイアウト1号ファンドのファイナルクローズ時に過去ファンド期間分の管理報酬を遡及計上）。
- Spring REITは安定して推移していますが、増減の主たる要因は為替の影響による資産評価額の変動によるものです。今後は新規資産の取得による増加を目指します。
- 資産投資は過去ファンドの投資Exitがほぼ終了し、上場時の調達資金により新規ファンドをレイズ中です。

3.4 営業総利益（成功報酬）推移

■ 過去6年間の成功報酬に係る営業総利益の推移

単位：百万円

営業総利益 (成功報酬)	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期
事業投資	110	-	-	25	-	644
Spring REIT	-	108	-	-	-	-
資産投資	41	2,055	1,462	1,246	563	86
営業総利益 (成功報酬)	152	2,163	1,462	1,271	563	730

- 事業投資はバイアウト1号ファンド等の主要ファンドが投資期間中であり、現状においては成功報酬ステージに未到達です。
- Spring REITは17/12期に新規資産の組入を行ったため、取得報酬（成功報酬）を計上しています。今後も新規資産取得に際しては取得報酬（成功報酬）が計上されます。
- 資産投資はグロース1号ファンドや金融危機時に組成したバリュート投資ファンド等の過去ファンドの投資Exitにより、成功報酬を計上しています。

3.4 営業総利益（自己投資/その他）推移

■ 過去6年間の自己投資/その他に係る営業総利益の推移

単位：百万円

営業総利益 (自己投資/その他)	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期
事業投資	0	-1	288	142	-7	398
Spring REIT (うち配当)	76 (77)	92 (93)	308 (282)	136 (233)	-106 (364)	433 (486)
資産投資	455	234	-2	485	227	184
営業総利益 (自己投資)	531	325	593	764	113	1,015

- 事業投資はバイアウト1号ファンド等の主要ファンドは投資期間中ですが、既存投資の一部投資先のExitにより、ファンド損益取込を通して、自己投資利益を計上しています。
- Spring REITは配当収入による安定収益を計上していますが、19/12期及び20/12期はリストラクチャリングに伴う評価損失を計上しています。
- 資産投資はグロース1号ファンドや金融危機時に組成したバリュート投資ファンド等の過去ファンドへの自己投資が、ファンド損益取込を通して、自己投資利益に計上されています。

4. 持株会社体制

マーキュリアインベストメントグループ概要

- 当社グループは、2005年に設立された、主にオルタナティブ投資を行う企業集団です

会社概要（2022年1月1日時点）

会社名	: 株式会社マーキュリアホールディングス
本社所在地	: 東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル
設立	: 2021年7月1日（前身のマーキュリアインベストメントは2005年10月5日設立）
資本金	: 4,057,656,380円
事業内容	: 持株会社、ファンド運用事業及び自己投資事業
経営陣	: 代表取締役CEO 豊島 俊弘 取締役COO資産投資統括 石野 英也 取締役CIO事業投資統括 小山 潔人
従業員数	: 連結 83名
上場区分	: 東京証券取引所市場プライム (証券コード7347)
戦略株主	: 株式会社日本政策投資銀行 伊藤忠商事株式会社 三井住友信託銀行株式会社

主要関係会社

- **株式会社マーキュリアインベストメント（東京）**
バイアウトファンド、グロースファンド、インフラファンド、航空機リースファンド等、プライベートエクイティファンドの運用
- **Spring Asset Management Limited（香港）**
Spring REIT（香港証券取引所上場）の運用
- **MIBJ Consulting (Beijing) Co., Ltd.（中国）**
China Central Place（Spring REIT保有施設）の管理、及び中国における各種投資コンサルティング
- **Mercuria (Thailand) Co., Ltd.（タイ）**
タイに事業展開する日本企業の現地サポート、及びタイにおける各種投資コンサルティング
- **エネクス・アセットマネジメント株式会社（東京）**
エネクス・インフラ投資法人（東京証券取引所上場）の運用
- **株式会社マーキュリアエアボーンキャピタル（東京）**
航空機ファンド、航空機ファイナンス事業
- **株式会社ビジネスマーケット（東京）**
インターネットを活用した事業承継支援

■ ミッション

“ファンドの力で、日本の今を変える”

■ 3つの経営理念

クロスボーダー（国の壁、心の壁、世代の壁を超えて） ～Cross Border～

あらゆる垣根を超え、日本の強みを基盤として世界に広がる成長分野や成長可能性への投資を中心に、産業界・投資業界の幅広いネットワークを通じ、ユニークな投資機会を見出すことを目的としています。

世界に冠たる投資グループへ ～Global Reach～

オルタナティブ（代替）投資でのアルファ（超過利得）の獲得を追求し、投資資金が有効に使われて循環することで、ファンドの投資家のみならず、投資先並びに当グループの株主をはじめ様々なステークホルダーの皆様にリターンを分配する、世界に冠たる投資グループを目指します。

5年後の常識 ～Undiscovered Common～

今は意識されていないけれども、5年後には当たり前になっている、そういった分野に取り組み開発していくことが、当グループの将来を切り開いていくものと考えます。

設立以前

豊島が世界銀行にて「世界経済のダイナミックな成長に日本経済を随伴させるにはEquityの突破力が必要」と考え、**当社経営理念の「クロスボーダー」に思い至る**

2005年

当社の前身となる「あすかDBJパートナーズ」を設立
クロスボーダー・グロースファンド1号を組成

後にSpring REITとなる北京のChina Central Place への投資実行→**「国の壁」を超える**
ライフネット生命及びほけんの窓口への投資実行→**「心の壁」を超える**

2008年

経済危機時（リーマンショック以降）において中国不動産関連投資を再編
外資系投資銀行の日本からの投資撤退資産及びノンバンクアセットへの投資実行

2011年

クロスボーダー・グロースファンド2号の組成

Spring REITが香港証券取引所に上場

伊藤忠商事及び三井住友信託銀行が資本参画→**戦略的パートナーの参画**

2016年

バイアウト1号組成→**「世代の壁」を超える**

マーキュリアインベストメントとして東証二部に上場（翌2017年に東証一部に指定替え）

2018年

航空機リースファンドを組成→**インフラファンドを含むキャッシュフロー投資への本格的な参画**

2019年

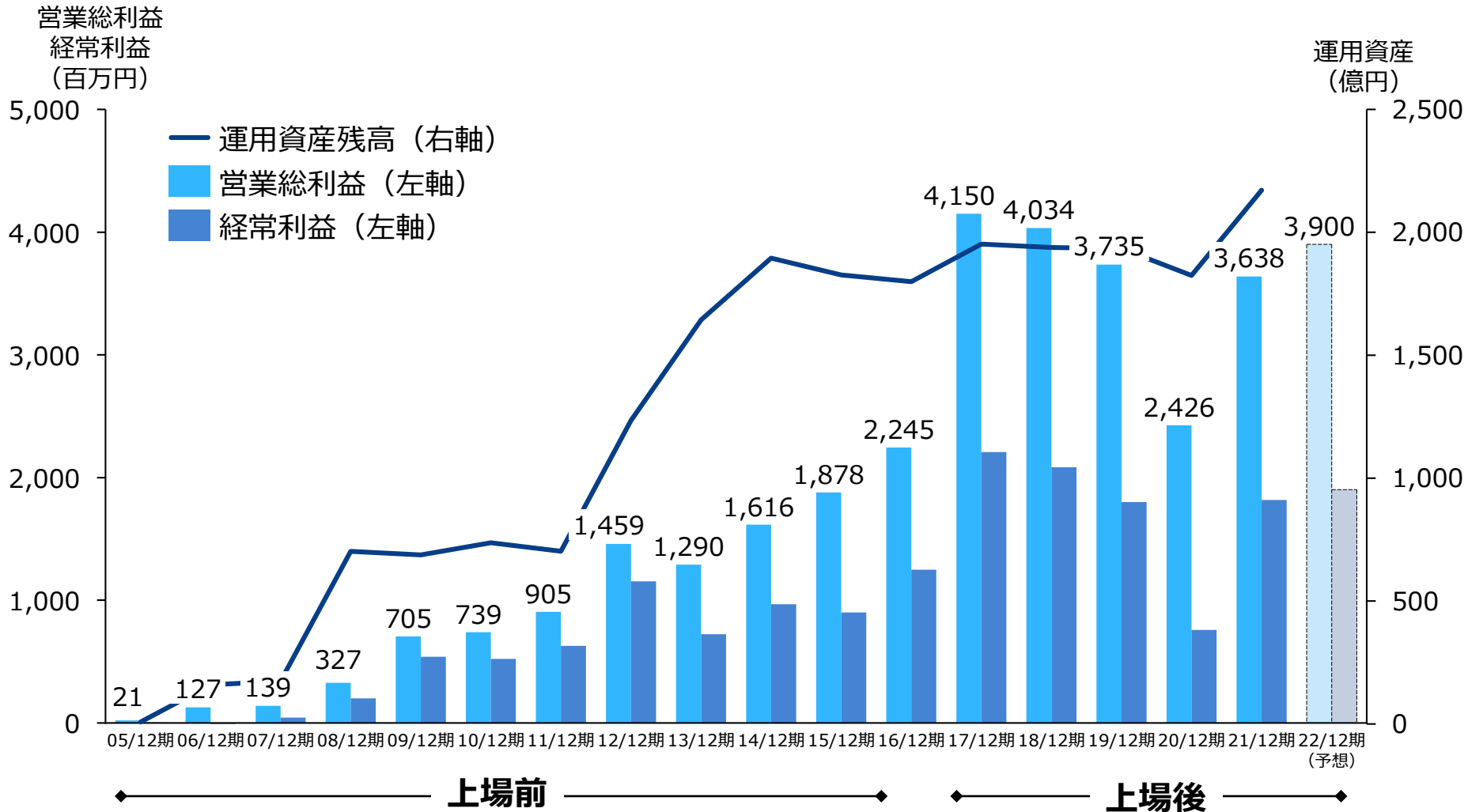
エネクスインフラ投資法人が東証インフラファンド市場に上場
BizTechファンド組成

2021年

持株会社マーキュリアホールディングスを設立し上場
マーキュリアエアボーンキャピタルの設立

主要経営指標の推移

- 当社グループは設立以来、経済危機等の局面を超えて、マクロ環境のトレンドを予測し戦略的に投資領域をシフトすることで大きな成長を遂げてきました。





持株会社体制プラットフォーム（1/2）

運用市場	LP投資家/顧客		LP投資家/顧客		LP投資家/顧客						
投資戦略	バイアウト		グロース		キャッシュ・フロー/不動産						
事業単位 (小)	バイアウト 1号	バイアウト 2号	Biztech	China Fintech	グロース 1号/2号	インフラ ウェア ハウジング	エネクス インフラ REIT (上場)	航空機 リース	国内 不動産	タイ コンサル	Spring REIT (上場)
リーダー	小山		許	石野			広谷	深井	百田	Kevin	Judy
事業区分 (大)	事業投資					資産投資					Spring REIT
法人格	マーキュリアインベストメント (MIC)						エネクス AM	MAC	Mercuria Thailand	SAML	MIBJ
持株会社 プラットフォーム	マーキュリアホールディングス (上場) (MHD)										
リーダー	ミッション ファンドの力で日本の今を変える						豊島			滝川	
資本市場	株主										

持株会社体制プラットフォーム (2/2)

事業 チーム	<h3>事業投資リーダー</h3>  <p>小山 潔人 取締役CIO 事業投資統括</p>	<h3>資産投資リーダー</h3>  <p>石野 英也 取締役COO 資産投資統括</p>	<h3>Spring REIT事業リーダー</h3>  <p>Leung Kwok Hoe, Kevin Spring Asset Management Limited</p>	
	<p>統括ファンド</p> <ul style="list-style-type: none">・バイアウト1号・バイアウト2号・Biztech・China Fintech <p>経歴</p> <ul style="list-style-type: none">・日本政策投資銀行	 <p>許 曉林 執行役員 中国事業統括</p>  <p>荒谷 徹 MD 営業部長</p>	<p>統括ファンド</p> <ul style="list-style-type: none">・グロース1号・グロース2号・インフラウェアハウジング・航空機リース <p>経歴</p> <ul style="list-style-type: none">・ソロモン・ブラザーズ	 <p>Yan Judy MIBJ Consulting (Beijing) Co., Ltd.</p>
			 <p>深井 聡明 執行役員 国内不動産 事業統括</p>	<h3>タイ事業リーダー</h3>  <p>百田 稔 Mercuria (Thailand) Co., Ltd.</p>

持株会社 プラット フォーム	<h3>マーキュリアインベストメントグループリーダー</h3>		
	 <p>豊島 俊弘 代表取締役CEO</p>	<p>グループ最高責任者</p> <p>経歴</p> <ul style="list-style-type: none">・日本政策投資銀行・世界銀行	<h3>経営管理/事業企画リーダー</h3>  <p>滝川 祐介 執行役員 経営管理統括/ 事業企画統括</p>

マーキュリアの先見性

- 様々なマクロトレンドの変化を読み取り、ファイナンシャル・パートナーとして事業のクロスボーダーな成長をサポート



中国経済成長



リーマンショック

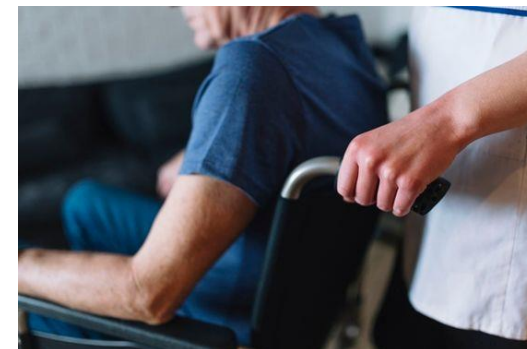
STELLAR WORKS



東アジア経済成長



超高齢化社会



マーキュリアの有言実行力 (“5年後の当たり前”を実現化)

■ 将来を見据えた金融商品への開発と実績

2016年東証2部上場時の環境

高齢化による
事業承継問題

年金受給者の増加
に答える代替運用

リース業界の変動

金融危機からの脱却
アベノミクス開始



解決策

バイアウトファンドの
シリーズ化・Bizmaに
よる事業承継の啓蒙

キャッシュフロー投資
新商品開発

航空機リース参入

投資案件のEXIT

実績

200億円
を超えるバイアウト
ファンド組成

バイアウト2号

Spring REIT
(約600億円*)

インフラREIT
(約345億円*)

* 括弧内は時価総額を表す

120億円超の
ファンド組成

JVによる新たな
航空機
ファイナンス

EXIT完了

成功報酬
62億円*

* 5年間累積金額



Mercuria Investment Group